

国指定文化財の指定等について

1 国指定史跡の追加指定

国の文化審議会（会長：島谷弘幸^{しまたにひろゆき}）は、令和 7 年 6 月 20 日（金曜日）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、国史跡「小田原城跡」^{おだわらじょうあと}（小田原市）について指定地の範囲を追加するよう、文部科学大臣に対して答申し、文部科学省は、令和 7 年 9 月 18 日（木曜日）付け官報において、国史跡「小田原城跡」^{おだわらじょうあと}（小田原市）について指定地の範囲を追加する旨の告示を行いました。

なお、現在の本県の国指定「史跡名勝天然記念物」は累計で 73 件（史跡 60 件、史跡及び天然記念物 1 件、名勝 4 件、名勝及び史跡 2 件、天然記念物 6 件）となります。

※答申については令和 7 年度第 1 回審議会にて報告済み

[令和 7 年 6 月 20 日答申、令和 7 年 9 月 18 日官報告示]

小田原城跡^{おだわらじょうあと}（写真①～⑦）

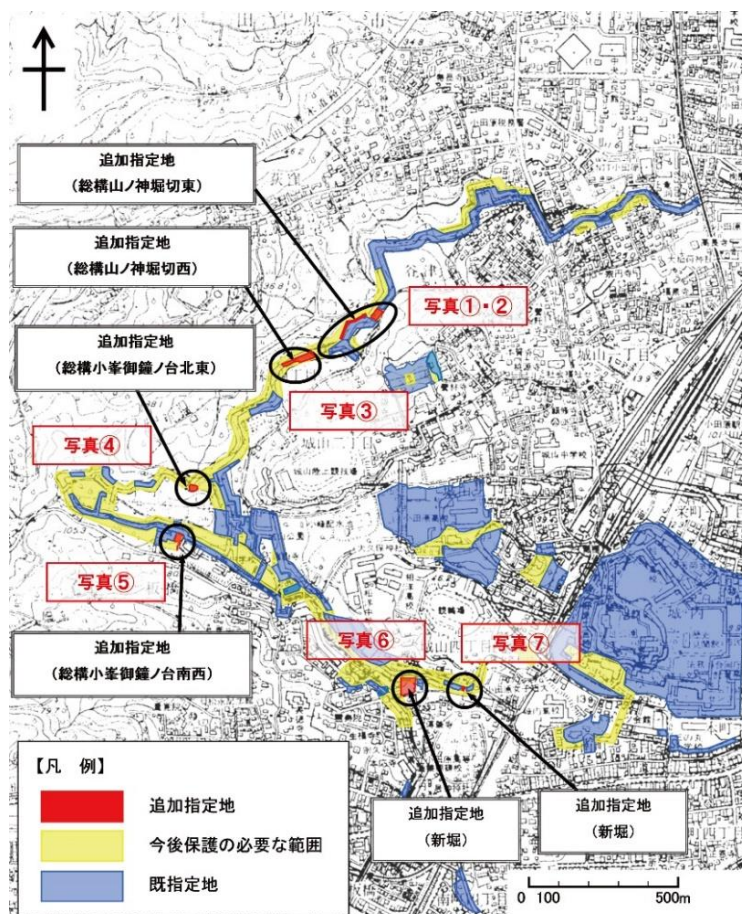
所在地 小田原市城内 900 番 1 外 591 筆（既指定地）

小田原市谷津字山神^{やつ あざやまのかみ} 259 番 15 外 14 筆（追加指定地）

指定面積 309,567.17 m²（うち今回追加分 4,456.49 m²）

概要 戦国時代、小田原北条氏^{おだわらほうじょうし}が関東支配の中心拠点として整備・拡張した城跡。小田原北条氏滅亡後、大久保氏^{ふだい}他の譜代大名が城主となり、関東地方の入口の防御の要として江戸時代を通じて重視された。今回、総構^{そうがまえ}の土塁と堀にあたり、既指定地に隣接する 6 地点 7 か所 15 筆を追加指定する。地点名は次のとおり。総構山ノ神堀切東^{そうがまえやまのかみほりきりひがし}（2 か所）、総構山ノ神堀切西^{そうがまえやまのかみほりきりにし}、総構小峯御鐘ノ台北東^{そうがまえこみねおかねの だいほくとう}、総構小峯御鐘ノ台南西^{そうがまえこみねおかねの だinnanせい}、新堀^{しんほり} 2 地点（2 か所）

追加指定地の位置図（S=1/250）



追加指定地の写真



写真① そうがまえやまのかみほりきりひがし
総 構 山ノ神堀切 東



写真② そうがまえやまのかみほりきりひがし
総 構 山ノ神堀切 東



写真③ そうがまえやまのかみほりきりにし
総 構 山ノ神堀切西



写真④ そうがまえこみねおかねのだいほくとう
総 構 小峯御鐘ノ台北東



写真⑤ そうがまえこみねおかねのだいなんせい
総 構 小峯御鐘ノ台南西



写真⑥ しんほり
新堀



写真⑦ しんほり
新堀

2 国登録有形文化財（建造物）の新規登録

文部科学省は、令和7年8月6日（水曜日）付け官報において、「^{きゅうまつのけじゅうたくおもや}旧松野家住宅主屋」（横浜市磯子区）ほか4件（計3箇所）を、登録有形文化財（建造物）に登録する旨の告示を行いました。

現在、本県の国登録有形文化財（建造物）は累計で343件（177箇所）です。

[令和7年8月6日告示]（令和7年度第1回文化財保護審議会資料より再掲）

^{きゅうまつのけじゅうたくおもや}旧松野家住宅主屋

^{きゅうまつのけじゅうたくおもや}旧松野家住宅表門及び塀

所在地 横浜市磯子区滝頭 ^{たきがしら}

所有者 個人

建築年代 主屋：昭和5年／昭和47年増築

表門及び塀：昭和7年頃

数量 2件（1箇所）

特徴等 主屋は、^{ほりわりがわ}掘割川の西に位置する地主の本宅。敷地中央に南面して建つ^{よせむねづくりさんがわらぶき}寄棟造^{とこがま}棧瓦葺の平屋建で、正面東寄りに入母屋造の玄関を付す。内部は南西のオクノマ八畳に床構えを備え、玄関の東にチャノマ、北にダイドコロを配す。床^{とこがまち}框^{したん}に紫檀など吟味し、良材を用いた近代和風住宅。

表門及び塀は、主屋玄関の南、引込み路に南面して開く。表門は^{きりつまづくりさんがわらぶき}切妻造^{うでぎ}棧瓦葺で二段に腕木を重ねる^{うでぎもん}腕木門。両脇に延びる塀は^{さんがわらぶき}棧瓦葺で、表門と揃えて二段に腕木を重ね、門両脇の腰を^{たていたばり}縦板張に^{たけめいたうち}竹目板打とする以外は^{したみいたばり}下見板張とする。敷地南面の歴史的な景観を整える表門と塀。

基準 主屋：登録有形文化財登録基準2号該当（造形の規範となっているもの）

表門及び塀：登録有形文化財登録基準1号該当（国土の歴史的景観に寄与しているもの）



旧松野家住宅主屋



旧松野家住宅表門及び塀

こうほ けいじゅうたくてんぽけんおもや
幸保家住宅店舗兼主屋

こうほ けいじゅうたくいしぐら
幸保家住宅石蔵

所在地 横須賀市東浦賀

所有者 個人

建築年代 店舗兼主屋：大正14年／令和6年改修

石蔵：大正4年

数量 2件（1箇所）

特徴等 浦賀湾東側の街路に西面して建つ、元米穀商の建物。

店舗兼主屋は、二階建寄棟造^{よせむねづくり}棧瓦葺^{さんがわらぶき}で正面に下屋を付す。一階内部は前土間で、繊細な格子戸を建て、奥に二室を配す。二階は二室で表側を十畳の床^{とこま}構え付き座敷とする。窓に手摺を付し港町の風情を伝える貴重な町家。

石蔵は、主屋の南隣に立つ米蔵。切妻造^{きりづまづくり}棧瓦葺^{さんがわらぶき}で鉢巻^{はちまき}を含め、外壁全面に長尺の房州石^{ぼうしゅういし}を積上げた木骨石造^{もっこつせきぞう}建築。北面に戸口を設け、各階一室で木造軸組^{つかたて}と東立の和小屋を現し、一階土間の内壁に荷擦木^{にずりぎ}を打付ける。店舗兼主屋と一連で、浦賀の往事の景観を今に伝える。

基準 登録有形文化財登録基準1号該当（国土の歴史的景観に寄与しているもの）



幸保家住宅店舗兼主屋



幸保家住宅石蔵

きゅうやまかわけじゅうたくおもや
旧山川家住宅主屋

所 在 地 中郡二宮町二宮

所 有 者 個人

建 築 年 代 昭和 18 年／昭和 45 年頃・平成 10 年頃改修

数 量 1 件（1 箇所）

特 徴 等 二宮駅から海岸に通じる緩やかな坂道に東面する日本画家山川^{やまかわしゅうほう} 秀 峰の住宅。木造二階建、
切妻造^{きりづまづくり}のシンプルな外観で、かつて海を望んだ南側に画室や居室を並べる。画室は和小屋を
現し、一部丸竹詰張^{まるたけつめばり}の天井を張るなど、民家風の趣味を取入れた貴重な吉田五十八^{よしだいそや}作品。

基 準 登録有形文化財登録基準 2 号該当（造形の規範となっているもの）



旧山川家住宅主屋